

年間指導計画参考資料(小学校 国語)

1年

……学校の授業以外での学習が可能と考えられる教材・学習活動

……感染症対策の観点から、指導順序を変更することが考えられる教材・学習活動

数字 ……学校の授業以外での学習時数を差し引いた、学校での授業時数(変更の生じていないものは黒字で表示)

※ なお、年度末までに学習内容が指導しきれなかった場合には、次年度に送ることも考えられる。ただし、その場合、教員間でしっかりと引継ぎをすること。

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
どういおうかな 2時間(話聞②) 教:1上p2～3 ◇お互いの話をよく聞いて話をつなぎ、相手や場面に応じて適切な言葉遣いで話すことができる。【知】:(1)キ、【話】:(1)オ	2	①絵を見て、何をして、どんな話をしている場面なのかを出し合う。 ②それぞれの場面に合った言葉や動作を考え、友達と話し合ったり、全員の前で発表したりする。 ③学習を振り返り、相手や場面によって言葉遣いが違ってくることを確かめる。	【知】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うことができる。[知・技 (1)キ] 【話】互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表 A(1)オ] 【学】進んでそれぞれの場面にふさわしい言葉を考え、今までの経験を思い出しながら話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]
おなまえおしえて 1時間(話聞①) 教:1上p4～5 ◇相手が読みやすいように自分の名前を丁寧に書き、互いに自己紹介をし合うことができる。【知】:(1)ウ、【話】:(1)エ、オ	1	①教科書の絵を見て、自分の名前を書いて自己紹介し合うことを知る。 ②自分の名前を平仮名で名前カードに書く。 ③名前カードで自己紹介をし合い、学級全体で喜びを共有する。	【知】平仮名を読み、書くことができる。[知・技 (1)ウ] 【話】身近なことから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア] 【話】互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表 A(1)オ] 【学】進んで名前カードを丁寧に書き、学習活動に沿って友達と交流しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
おはなしききたいな 2時間(知技①読①) 教:1上p6～7 ◇本の読み聞かせを、様子を想像しながら楽しんで聞き、読書に興味をもつことができる。【知】:(3)エ、【読】:(1)エ、(2)イ	2	①絵を見て、今までに読み聞かせしてもらったことのある作品について出し合う。 ②教師が選んだ本の読み聞かせを聞き、思ったことを言う。 ③グループごとに好きな本を選んで、教師に読んでもらう。 ④登場人物や出来事など、お話の内容について想像したこと、読み聞かせの感想などを交流する。	【知】読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。[知・技 (3)エ] 【読】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ] 【学】進んで絵本の内容に興味をもち、学習活動に沿って様々な本を読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]
みんなであいうえお 2時間(知技②) 教:1上p8～9 ◇姿勢や口形などに気を付けて、母音や母音から始まる言葉を正しく発音することができる。【知】:(1)イ、ウ	2	①写真を見て、姿勢を確かめ、のどのふるえの違いに気付く。 ②写真と比べながら、母音を発音する時の口形を確かめ、声を出し合う。 ③拍手をするなどして音節を確かめながら、母音から始まる言葉を正しく発音する。	【知】音節と文字との関係に気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。[知・技 (1)イ] 【知】平仮名を読むことができる。[知・技 (1)ウ] 【学】進んで姿勢と口形、音節と文字の関係に注意し、学習課題に沿って母音を発音しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
おおきくちいさく 2時間(話聞②) 教:1上p10～11 ◇場面に応じた声の大きさを考えながら話すことができる。【話】:(1)ウ	2	①絵を見て、四つの場面ごとにどんな声の大きさを話しているかを考える。 ②場面ごとの「声のものさし」を理解し、実際に声を出してみる。 ③場面に応じた声の大きさについて話し合ってみる。	【話】伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。[思・判・表 A(1)ウ] 【学】進んで場面に合った大きさの声を考え、今までの学習を生かして発声しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
えんぴつもって 3時間(知技③) 教:1上p12～13 ◇姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けながら、一画・二画・三画の平仮名を書くことができる。【知】:(1)ウ、(3)ウ(ア)	3	①写真を見て、姿勢や鉛筆の持ち方を知り、唱え歌を唱えながら友達同士で確かめ合う。 ②線をなぞりながら、指先の力の入れ方を確かめる。 ③指示された平仮名を丁寧に書く。	【知】平仮名を読み、書くことができる。[知・技 (1)ウ] 【知】点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くことができる。[知・技 (3)ウ(ア)] 【学】進んで姿勢や鉛筆の持ち方を意識し、今までの学習を生かして文字を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
となえうた 2時間(知技①読①) 教:1上p14～15 ◇リズムや場面の様子を楽しみながら、語のまとまり、口形・姿勢に気を付けて音読することができる。【知】:(1)イ、ウ、エ、【読】:(1)イ	2	①文字と音節の関係を意識しながら、楽しんで繰り返し音読する。 ②唱え歌で使われている各語の最初の文字が同じ音であることに気付いたり、お話の場面の様子について話し合ったりする。	【知】姿勢や口形、発声や発音に注意することができる。[知・技(1)イ] 【知】平仮名を読むことができる。[知・技 (1)ウ] 【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク] 【読】内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ] 【学】進んで語のまとまりや発音などに気を付け、今までの学習を生かして音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
えからみつけたよ 3時間(知技①話聞②) 教:1上p16～17 ◇絵を見ながら型に合わせて尋ねたり、質問に答えたりすることができる。【知】:(1)キ、【話】:(1)オ、(2)イ	3	①絵を見て、見つけたことを出し合う。 ②ペアになって、提示された話型を参考に問答する。 ③尋ねる人は、話をつなげて「いくつ」「何をしている」など、思いついたことを自由に質問する。 ④目的語に合わせた存在動詞の使い分けを意識して、繰り返し問答をする。	【知】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けることができる。[知・技 (1)キ] 【話】互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表 A(1)オ] 【学】進んで活動を楽しみ、学習活動に沿って話型を使い、話をつなげようとする。[学びに向かう力、人間性等]

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
<p>どこがかわったかな</p> <p>3時間(知技①話聞②)</p> <p>教:1上p18～19</p> <p>◇絵を見ながら、違いを見つけてその理由を考えたり、どんなことを話しているのかを想像したりして、言葉で伝え合うことができる。【知】:(1)ア、オ、【話】:(1)エ、(2)イ</p>	3	<p>①①の絵から、見つけたことを出し合う。</p> <p>②①と②の絵とを比べ、変わったところやその理由を出し合う。</p> <p>③絵の出来事の中で、それぞれがどんなことを話しているのかを想像し、話し合う。</p>	<p>【知】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技 (1)ア]</p> <p>【知】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。[知・技 (1)オ]</p> <p>【話】互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表A(1)オ]</p> <p>【学】進んで見つけたことを言葉にしたり内容を想像したりし、学習課題に沿って話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>ひらがなひろば</p> <p>2時間(知技②)</p> <p>教:1上p20～21</p> <p>◇発音や口形に気を付けて平仮名を声に出すとともに、五十音表の仕組みを知り、音節と文字との関係に気付くことができる。【知】:(1)イ、ウ</p>	2	<p>①五十音表を、行や段で声に出して読み、その仕組みを知る。</p> <p>②平仮名を、のぼしたり区切ったりして発音する。</p> <p>③平仮名を選んで言葉を作り、みんなで声に出して読む。</p>	<p>【知】姿勢や口形、発声や発音に注意することができる。[知・技 (1)イ]</p> <p>【知】平仮名を読むことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【学】進んで五十音表の仕組みを理解し、これまでの学習を生かして清音の平仮名を読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>ゝやの つくじ</p> <p>2時間(知技①書①)</p> <p>教:1上p22～23</p> <p>◇運筆に気を付けながら、濁音と半濁音を含む単語を書くことができる。【知】:(1)ウ、オ、ク、【書】:(1)ウ</p>	2	<p>①濁音や半濁音が含まれた単語を、一語一語唱えながら読み、丁寧に書く。</p> <p>②濁点や半濁点の付いていない単語との意味の違いを確かめる。</p> <p>③濁音や半濁音が含まれた詩を音読する。</p> <p>④濁音・半濁音の一覧表を見ながら、濁音や半濁音を含んだ短い唱歌や遊び歌を考えて書く。</p>	<p>【知】平仮名を読み、書くことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【知】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技 (1)オ]</p> <p>【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク]</p> <p>【書】語と語の続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【学】進んで濁音や半濁音などを含む語を理解し、学習活動に沿って読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>ことばあそび</p> <p>4時間(知技②書②)</p> <p>教:1上p24～27</p> <p>◇言葉遊びを通して、言葉のもつよさを実感するとともに、拍や字形に気を付けて平仮名を読み書きすることができる。【知】:(1)イ、ウ、(3)エ、【書】:(1)ウ</p>	4	<p>①しりとりめいろの遊び方を理解し、音数を意識しながらしりとりめいろを楽しむ。</p> <p>②挿絵を見ながら空欄にどんな文字が入るか考えてクロスワードパズルを楽しみ、提出された平仮名を書く。</p> <p>③「たぬき言葉」の仕組みを理解し、解説する。</p> <p>④自分たちで言葉遊びを作る。</p> <p>⑤作った言葉遊びで楽しむ。</p>	<p>【知】音節と文字との関係に気付くことができる。[知・技 (1)イ]</p> <p>【知】平仮名を読み、書くとともに、文の中で使うことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【知】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。[知・技 (3)イ]</p> <p>【書】語と語の続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【学】進んで言葉遊びを楽しみ、今までの学習を生かして言葉のもつよさに気付こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>ともだちとはなそう</p> <p>3時間(話聞③)</p> <p>教:1上p28～29</p> <p>◇友達の話に関心をもち、相手に正確に伝わるように気を付けて話したり、聞いたことから話をつなげたりすることができる。【知】:(1)イ、【話】:(1)ア、エ、オ、(2)ア</p>	3	<p>①学習課題を知り、話したいことや聞いてみたいことを考える。</p> <p>②提示された話型を参考に、友達とペアになって話し合う。(自分が話したいこと)</p> <p>③友達とペアになって話し合う。(友達に聞きたいこと)</p> <p>④友達の話し方や聞き方の良かったところを伝え合う。</p>	<p>【知】発声や発音に注意して話すことができる。[知・技 (1)イ]</p> <p>【話】身近なことや経験したことなどから話題を決めることができる。[思・判・表 A(1)ア]</p> <p>【話】話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。[思・判・表 A(1)エ]</p> <p>【話】互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表 A(1)オ]</p> <p>【学】進んで伝わり方を考え、今までの学習を生かして友達と話をつなげようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>にているじ</p> <p>3時間(知技①書②)</p> <p>教:1上p30～31</p> <p>◇形の似た平仮名に気付き、字形に気を付けて平仮名の文を書くことができる。【知】:(1)ア、ウ、(3)ウ(イ)、【書】:(1)ウ</p>	3	<p>①提示された平仮名を見て、どこが似ているかを友達と出し合う。</p> <p>②字形に気を付けて、提示された平仮名を丁寧に書く。</p> <p>③形の似ている字を五十音表から見つけ、それらを含んだ単語を使って文を作る。</p>	<p>【知】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技 (1)ア]</p> <p>【知】平仮名を読み、書くことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【知】点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことができる。[知・技 (3)ウ(イ)]</p> <p>【書】語と語や文と文との続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【学】進んで形の似ている字を見つけ、学習課題に沿ってそれらを含んだ単語を読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>つまるおん</p> <p>2時間(知技①書①)</p> <p>教:1上p32～33</p> <p>◇促音を含む語の読み方と書き方を理解し、助詞「は」を使って主述の整った文を作ることができる。【知】:(1)イ、ウ、カ、【書】:(1)ウ</p>	2	<p>①挿絵を見ながら、促音を含んだ言葉を、文字と音節の関係を意識しながら読んだり書いたりする。</p> <p>②促音を含んだ詩を、語のまとまりやリズムに注意して音読する。</p> <p>③助詞「は」の使い方や句点の書き方に注意して、簡単な文を作る。</p>	<p>【知】音節と文字との関係に気付くとともに、発声や発音に注意することができる。[知・技 (1)イ]</p> <p>【知】促音、撥音などの表記、助詞の「は」の使い方、句読点の打ち方を理解することができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技 (1)カ]</p> <p>【書】語と語の続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【学】進んで促音を含んだ語を理解し、今までの学習を生かして読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
おはなしをよもう かえるのかさ 4時間(知技①読③) 教:1上p34～39 ◇文章や挿絵を見ながら、お話の大体の流れを捉え、語のまとまりに気を付けながら楽しんで音読することができる。【知】:(1)キ、ク、【読】:(1)イ、(2)イ	4	①題名からどんな物語か想像して興味をもつ。 ②挿絵を見ながら教師の範読を聞き、お話の大体をつかむ。 ③語のまとまりに気を付けて全文を音読する。 ④挿絵や文章をもとに場面の様子や人物の言動を想像する。 ⑤挿絵の吹き出しを考えたり、結末のお話を考えたりする。 ⑥人物の行動を想像しながら、役割音読など工夫して音読する。 ⑦感想を伝え合う。	【知】敬体で書かれた文章に慣れることができる。[知・技 (1)キ] 【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク] 【読】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ] 【学】進んでお話の大体を捉え、課題に沿って音読を楽しもうとする。[学びに向かう力、人間性等]
のばすおん 2時間(知技①書①) 教:1上p40～41 ◇長音を含む語の読み方と書き方を理解し、助詞「を」を使って短い文を作ることができる。【知】:(1)イ、ウ、ク、【書】:(1)ウ	2	①長音を含む単語を、文字と音節の関係を意識しながら読んだり書いたりする。 ②「エ列」「オ列」の長音表記の例外を知る。 ③長音を含む詩を、語のまとまりやリズムに注意して音読する。 ④助詞「を」の読み方や使い方に注意して、簡単な文を作る。	【知】音節と文字との関係に気付くことができる。[知・技 (1)イ] 【知】長音の表記、助詞の「を」の使い方、句読点の打ち方を理解する。[知・技 (1)ウ] 【知】語のまとまりに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク] 【書】語と語の続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【学】進んで長音を含んだ語を見つけ、学習課題に沿って読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
えをみてはなそう 4時間(知技①話聞③) 教:1上p42～43 ◇四枚の続き絵を一連のお話として捉え、分かったことや想像したことを伝え合うことができる。【知】:(1)ア、(2)ア、【話】:(1)オ、(2)イ	4	①四枚の絵を見て、見つけたことや気付いたことを出し合う。 ②①から④の絵のそれぞれの様子を、どんなことが起き、どんなことを話しているのかを、ペアで話し合う。 ③絵の中に吹き出しを入れ、一連のお話として捉え、さらに気づいたことを話し合う。	【知】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技 (1)ア] 【知】事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技 (2)ア] 【話】互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表 A(1)オ] 【学】進んでお互いに考えを伝え合い、学習活動に沿って絵から想像したことを話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
かるたをつくらう 3時間(知技①書②) 教:1上p44～45 ◇語と語との続き方に気を付けて読み札の文を作り、かるた遊びを通して言語感覚を養うことができる。【知】:(1)オ、(3)イ、【書】:(1)ア、ウ	3	①かるたを作って遊ぶことを知り、読み札を読んだり、かるた遊びのルールを確かめたりする。 ②提示された基本文型を使って、読み札の文を分担して作り、それらに合わせた絵札も作る。 ③作ったかるたで遊ぶ。 ④郷土のかるたなどを知り、地域特有の言語文化に触れる。	【知】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技 (1)オ] 【知】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。[知・技 (3)イ] 【書】身近なことから書くことを見付けることができる。[思・判・表 B(1)ア] 【書】語と語の続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【学】進んでかるた遊びを楽しみ、今までの学習を生かして意味の明確な文の読み札を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
おはなしをたのしもう たぬきのじてんしゃ 8時間(知技①読⑦) 教:1上p46～49 ◇場面の様子を想像しながら楽しんで読み、内容の大体をつかむとともに、感想を伝え合うことができる。【知】:(1)ウ、ク、【読】:(1)イ、オ、カ、(2)イ	8	①題名からどんな物語か想像して興味をもつ。 ②全文を音読し、話の大体をつかむ。 ③工夫して音読したり動作化したりしながら、人物の様子を想像する。 ④好きな場面をグループごとで音読し、聞き合う。 ⑤音読の良かったところやお話の感想を伝え合う。	【知】かぎ(「 」)の使い方を理解することができる。[知・技 (1)ウ] 【知】語のまとまりに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク] 【読】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ] 【読】文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] 【読】文章を読んで感じたことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 【学】進んで物語を楽しみ、学習課題に沿って場面の様子を想像しながら読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]
ちいさいや・ゆ・よ 2時間(知技①書①) 教:1上p50～51 ◇拗音を含む語の読み方と書き方を理解し、助詞「へ」を使って短い文を作ることができる。【知】:(1)イ、ウ、ク、【書】:(1)ウ	2	①拗音を含む語を、文字と音節の関係を意識しながら読んだり書いたりする。 ②拗音を含んだ言葉を使った詩を、語のまとまりやリズムに注意して音読する。 ③拗音、拗長音、拗促音の読み方と書き方を確かめる。 ④助詞「へ」の読み方や使い方に注意して、拗音一覧を参考にしながら簡単な文を作る。	【知】音節と文字との関係に気付くことができる。[知・技 (1)イ] 【知】拗音の表記、助詞の「へ」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)ウ] 【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク] 【書】語と語の続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【学】進んで拗音を含んだ語を探し、読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
<p>えやしやしてたしかめながらよもう</p> <p>いきもののあし</p> <p>8時間(書②読⑥)</p> <p>教:1上p52～59</p> <p>◇絵や写真と文章を結び付けて読み、内容の大体をつかんだり、文と文の続き方を確かめたりすることができる。【知】:(1)カ、ク、【書】:(1)ウ、【読】:(1)ア、カ、(2)ウ</p>	8	<p>①生き物図鑑を見て、動物の体の部分を説明するという学習課題をつかむ。</p> <p>②絵や写真と文を結び付けながら全文を音読し、三種の足が取り上げられていることをつかむ。</p> <p>③二種の足を比べて読み、気付いたことを出し合う。</p> <p>④残りの一種の部分を読み、説明の順序を確かめる。</p> <p>⑤図鑑で調べた動物の体の部分を取り上げ、「問いの文」「つくり」「働き」を意識して文章を書く。</p> <p>⑥書いた文をもとに説明し合う。</p>	<p>【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技 (1)カ]</p> <p>【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク]</p> <p>【書】語と語や文と文との続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【読】内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア]</p> <p>【読】文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ]</p> <p>【学】進んで絵や写真と文章を結び付け、学習課題に沿って内容の大体をつかもうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>きのうのこと</p> <p>6時間(知技①話聞①書④)</p> <p>教:1上p60～63</p> <p>◇経験したことについて、語や文のつながりに注意して文や文章を書くことができる。【知】:(1)ウ、主、【話】:(1)エ、【書】:(1)ア、オ、(2)イ</p>	5.5	<p>①昨日の出来事を思い出して話し、それを文章にするという課題をつかむ。</p> <p>②昨日のことを思い出して、話したい題材を選ぶ。</p> <p>③みんなの前で昨日したことを話し、教師が板書したものを視写する。</p> <p>④視写した文をもとに表し方の違いについて話し合い、敬体で書くことを知る。</p> <p>⑤主述の照応や句読点の表記などに注意しながら、昨日の出来事の様子が読み手に伝わるように文章を書く。</p> <p>⑥書いた文章を友達と読み合い、良かったところなど感想を伝え合う。</p>	<p>【知】句読点の打ち方を理解することができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【知】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うことができる。[知・技 (1)キ]</p> <p>【話】話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞くことができる。[思・判・表 A(1)エ]</p> <p>【書】経験したことから書くことを見付けることができる。[思・判・表 B(1)ア]</p> <p>【書】文章に対する感想を伝え合うことができる。[思・判・表 B(1)オ]</p> <p>【学】進んで経験したことを思い出して、学習活動に沿って書き表し方に注意して書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>は・を・へ</p> <p>3時間(知技①書②)</p> <p>教:1上p64～65</p> <p>◇助詞「は」「を」「へ」の使い方を理解し、それらを正しく使った文を書くことができる。【知】:(1)ウ、カ、【書】:(1)ウ</p>	3	<p>①提示された文を読み、助詞「は」「を」「へ」の読み方と書き方を知る。</p> <p>②「は」と「わ」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方を理解する。</p> <p>③文型に合わせて文を作り、発表し合う。</p>	<p>【知】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技 (1)カ]</p> <p>【書】語と語の続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【学】進んで助詞「は」「を」「へ」の使い方を理解し、学習課題に沿ってそれらを正しく使った文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>おはなしをたのしんでよもう</p> <p>おおきなかぶ</p> <p>おはなしをふりかえろう</p> <p>ほんをよもう</p> <p>10時間(読⑩)</p> <p>教:1上p66～79</p> <p>◇場面の様子や登場人物の行動を想像し、工夫して音読することで物語の世界を楽しむことができる。【知】:(1)ク、(3)エ、【読】:(1)イ、エ、カ、(2)イ</p>	10	<p>①題名からお話の内容を想像し、読んだ感想を伝え合う。</p> <p>②登場人物を確認し、大体の内容をつかむ。音読発表会への見通しをもつ。</p> <p>③それぞれの場面を読み、登場人物の願いや気持ちを想像する。</p> <p>④場面の様子に着目し、人物の会話を考える。</p> <p>⑤繰り返し出てくる表現に着目し、音読の工夫を考える。</p> <p>⑥接続語や副詞に着目し、音読の工夫を考える。</p> <p>⑦音読発表会をし、感想を伝え合う。</p> <p>⑧学校図書館に行き、好きな本を選ぶ。</p> <p>⑨選んだ本を紹介し、音読を発表し合う。</p>	<p>【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク]</p> <p>【知】読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。[知・技 (3)エ]</p> <p>【読】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ]</p> <p>【読】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ]</p> <p>【読】文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ]</p> <p>【学】進んで物語を楽しみ、学習活動に沿って音読を工夫しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>たのしかぞえよう</p> <p>かぞえうた</p> <p>かんじでかこう</p> <p>かずのかんじ</p> <p>4時間(知技②書②)</p> <p>教:1上p80～83</p> <p>◇漢字を使った数の読み方や書き方に慣れ、物の数え方について語彙の量を増やすことができる。【知】:(1)エ、オ、ク</p>	4	<p>①数え歌を、言葉の意味を考えながらリズム良く音読する。</p> <p>②漢数字の読み方や書き方、助数詞について知る。</p> <p>③いろいろな助数詞を使って身の回りにあるものを数え、ノートに書く。</p> <p>④グループで数え歌を作り、漢数字や物の数え方に慣れる。</p>	<p>【知】第一学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)エ]</p> <p>【知】言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技 (1)オ]</p> <p>【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク]</p> <p>【学】進んで数え歌や数を漢字で書くことに興味をもち、学習活動に沿って読んだり書いたりしようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>えにつきをかこう</p> <p>4時間(書④)</p> <p>教:1上p84～87</p> <p>◇経験したことを伝えるための文章を、絵日記の形にして書くことができる。【知】:(1)ウ、【書】:(1)ア、ウ、オ、(2)イ</p>	3	<p>①経験したことの中から書きたいことを考え、隣同士で話し合う。</p> <p>②書く題材を選び、詳しい内容を思い出す。</p> <p>③教科書の例を参考に絵日記を書く。</p> <p>④書いた絵日記を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>【知】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【書】経験したことなどから書くことを見付けることができる。[思・判・表 B(1)ア]</p> <p>【書】語と語や文と文との続き方に注意することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【書】文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ]</p> <p>【学】進んで絵日記を書くことに興味をもち、学習活動に沿って友達に伝えるための文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
しをあじわおう いるか おさるがふねをかきました 2時間(知技①読①) 教:1上p88~91 ◇詩に描かれた様子を想像し、言葉のリズムや響きを楽しみながら音読することができる。【知】:(1)ク、【読】:(1)エ、カ	2	①「いるか」を、繰り返しや韻などの表現を楽しみながら読み、音読を発表する。 ②「おさるがふねをかきました」を、律などの表現を楽しむとともに、自分がさるだったらと想像しながら読み、音読を発表する。	【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技 (1)ク] 【読】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ] 【読】文章を読んで感じたことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 【学】進んで想像して詩を読み、今までの学習を生かして音読を楽しもうとする。[学びに向かう力、人間性等]
1 みんなのまえではなそう はなしたいな、なつやすみのこと 6時間(話聞⑥) 教:1上p92~95 ◇経験した出来事から話題を決め、相手に伝わるように話の順序を考え、声の大きさや速さを工夫して話すことができる。【知】:(1)イ、キ、【話】:(1)ア、イ、ウ、(2)ア	6	①夏休みの出来事を思い出し、スピーチの話題を決める。 ②教師のショー・アンド・テルによるモデルスピーチを聞き、具体的なイメージをもつ。 ③伝えたいことをカードに一文ずつ書き、話す順序を考える(スピーチする時に見せたいものや写真を準備する)。 ④夏休みの思い出発表会を開き、ショー・アンド・テルによりみんなの前で話す。 ⑤友達のスピーチについて質問したり感想を伝え合ったりする。 ⑥話す時に気を付けたことなど、学習の振り返りをする。	【知】姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。[知・技 (1)イ] 【知】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うことができる。[知・技 (1)キ] 【話】経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア] 【話】相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。[思・判・表 A(1)イ] 【話】伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。[思・判・表 A(1)ウ] 【学】進んでクラスの友達に伝えることに対して興味をもち、学習活動に沿って聞き手に伝わるように話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]
2 みつけてよもう はまべでひろったよ 6時間(読⑥) 教:1上p96~101 ◇主語と述語の関係や語句のまとまりに注意して読み、事柄の順序や文章構成上の順序を考えながら文章の大体を捉えることができる。【知】:(1)オ、カ、(2)ア、【読】:(1)ア、ウ	6	①全文を音読し、感想を話し合う。 ②問いの文を見つけ、何を説明しようとしている文章なのかを確かめる。 ③「何が」の文に着目して表に書き出し、整理する。 ④「どのように」の文に着目して、述べ方の順序を確かめる。 ⑤書きぶりの違いから、事物の内容を表す言葉の働きや筆者の思いを確かめる。 ⑥読み取ったことをもとに紹介し合う。	【知】言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技 (1)オ] 【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技 (1)カ] 【知】事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技 (2)ア] 【読】事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] 【読】文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。[思・判・表 C(1)ウ] 【学】進んで語句のまとまりや事柄の順序を考え、学習課題に沿って説明文を読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]
ことば かたかなをみつけよう 2時間(知技②) 教:1上p102~103 ◇片仮名の表記を理解し、正しく読むとともに、片仮名で書く言葉を見つけて書くことができる。【知】:(1)ウ	2	①片仮名で書く言葉を絵から見つけ、読んだり書いたりする。 ②片仮名の直音のほか、長音、促音、拗音の書き方を確かめる。 ③身の回りから片仮名で書く言葉を見つければ、教科書p135~136の折り込みページを参考にしながらノートに書く。	【知】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知ることができる。[知・技 (1)ウ] 【学】進んで身の回りから片仮名で書く言葉を見つければ、学習課題に沿って片仮名を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
3 かんさつしたことをかこう がっこうでみつけたよ 10時間(書⑩) 教:1上p104~109 ◇学校で見つけた動植物を観察し、気が付いたことをもとに観察記録文を書くことができる。【知】:(1)オ、【書】:(1)ア、ウ、エ、(2)ア	9	①学習課題と進め方を確かめ、学習の見直しをもつ。 ②学校の中で見つけた動植物の様子を観察してノートに書き出し、その中から詳しく書きたいものを選ぶ。 ③観察の観点を確かめ、気付いたことをカードにまとめる。 ④カードをもとに、文章に表す方法を考え、見つけた事柄を、カードをもとに1つずつ文にする。 ⑤書いた文章をどんな順序にするか考え、表記に気を付けて記録文を書く。 ⑥書いた文を声に出して読んだり友達と読み合ったりして推敲する。 ⑦書いた文章を、友達と読み合い、感想を交流する。 ⑧単元の学習のまとめをする。	【知】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。[知・技 (1)オ] 【書】経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 【書】語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【書】文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 【学】進んで身の回りの動植物をよく観察し、学習課題に沿って気付いたことを観察記録文に書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
ことばをききとろう 「ぬりえゲーム」をしよう 3時間(話聞③) 教:1上p110~111 ◇ぬり絵を完成させるために、大事なことを落とさずに話し手のヒントを聞くことができる。【知】:(1)ア、【話】:(1)エ	3	①ぬり絵ゲームのやり方を確かめる。 ②一回目のぬり絵ゲームを行う(先生が出すヒントを聞き、ぬり絵を完成させる)。 ③正しく完成させることができたか、確かめる。 ④二回目のぬり絵ゲームを行う(グループごとに配られたヒントカードに書かれたヒントを伝え合い、ぬり絵を完成させる)。 ⑤正しく完成させることができたか、確かめる。 ⑥学習の振り返りをする。	【知】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技 (1)ア] 【話】話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。[思・判・表 A(1)エ] 【学】進んで「ぬりえゲーム」に関心をもち、学習課題に沿って相手の言うヒントを聞こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
<p>ことばのいずみ1 かんじのできかた 2時間(知技②) 教:1上p112~113 ◇1年生に担当されている漢字の字形や成り立ちを理解することができる。【知】:(1)エ</p>	2	<p>⑦教科書p112の解説や例示されている漢字を見て、物の形からできた漢字を学習する。 ⑧教科書p113の解説や例示されている漢字を見て、印からできた漢字を学習する。</p>	<p>【知】第一学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 【主】進んで漢字の字形や成り立ちを確かめ、学習課題に沿って、一年生担当漢字を文や文章の中で適切に使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>むかしばなしをよもう さるじぞう おはなしがいっぱい 8時間(知技⑤読③) 教:1上p114~123 ◇昔話の世界を楽しみ、場面の様子を想像しながら読むことができる。【知】:(1)ク、(3)ア、エ、【読】:(1)イ、(2)イ</p>	6	<p>①これまでに読んだ昔話について、知っていることを出し合い、「さるじぞう」の題名から内容を想像する。 ②教師の範読を聞き、内容や繰り返し表現など、おもしろかったところを伝え合う。 ③役割を決め、グループで音読を楽しむ。 ④音読を発表し、感想を伝え合う。 ⑤学習を振り返る。 ⑥挿絵を見て、知っているお話について話し合い、読書に興味をもつ。 ⑦昔話の読み聞かせを聞いたり、好きな本を選んで読んだりする。 ⑧地域の民話を知ったり、語りを聞いたりする。</p>	<p>【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 【知】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。[知・技(3)ア] 【知】読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。[知・技(3)エ] 【読】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ] 【学】進んで昔話に親しみ、学習課題に沿って様々な昔話を読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>うみはごきげん 1時間(読①) 教:1下p①~1 ◇詩に描かれた様子を想像し、語のまとまりごとに意味を考えながら音読することができる。【知】:(1)ク、【読】:(1)エ</p>	1	<p>①「うみはごきげん」の様子を想像しながら音読し、おもしろかったところを出し合う。 ②擬態語や擬人法などの表現を楽しみながら、動作化するなどして工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 【読】場面の様子に着目して具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ] 【学】進んで語のまとまりに気を付け今までの学習を生かして音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>1 くらべてよもう くらしをまもる車 6時間(読⑥) 教:1下p6~11 ◇事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、大事な語や文を捉えることで、同じところや違うところを見つげることができる。【知】:(1)カ、ク、(2)ア、【読】:(1)ア、ウ、オ、(2)ア</p>	6	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。 ②見たことのある自動車について出し合い、教材文に関心をもつ。 ③問いの文を見つけ、それぞれの車の「働き」と「つくり」を意識する。 ④表にまとめることで、大体の内容をつかむ。 ⑤事例同士を比べて考える。 ⑥接続語に着目し、「働き」と「つくり」の事柄の順序を捉える。 ⑦「働き」に着目して、身の回りの車と生活とのつながりを考え、題名「くらしをまもる車」について考える。 ⑧学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] 【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 【知】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 【読】事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] 【読】文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。[思・判・表 C(1)ウ] 【読】文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] 【学】進んで事柄の順序を考えたり、大事な語や文を捉えたりし、学習課題に沿って読み取ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>しらべてかこう のりものしらべをしよう 8時間(書⑧) 教:1下p12~15 ◇知っている乗り物を図鑑などで調べ、分かったことをまとめた文章を紹介し合うことができる。【知】:(1)ウ、(2)ア、【書】:(1)ア、ウ、オ</p>	7	<p>①学習課題と進め方を確かめる。 ②知っている乗り物を出し合い、調べる乗り物を決める。 ③選んだ乗り物について、図鑑で調べて重要な語や文を選び出し、「働き」と「つくり」に分けて表にまとめる。 ④表をもとに順序に気を付けて文章を書き、絵も描く。 ⑤書いた文章を友達と読み合い、分かったことを説明し合ったり感想を伝え合ったりする。 ⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 【知】事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 【書】経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 【書】語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【書】文章に対する感想を伝え合うことができる。[思・判・表 B(1)オ] 【学】進んで乗り物の「働き」と「つくり」の関係を考え、学習課題に沿って文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>しらべよう まとめよう ずかんをつかってしらべよう 2時間(読②) 教:1下p16~17 ◇知っている乗り物を図鑑などで調べ、分かったことを伝え合うことができる。【知】:(3)エ、【読】:(1)ウ、(2)ウ</p>	1	<p>①目次と索引の仕組みを知り、課題に取り組む。 ②調べたい事柄を図鑑を使って調べ、表にまとめる。 ③調べて分かったことを説明し合う。</p>	<p>【知】読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。[知・技(3)エ] 【読】文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。[思・判・表 C(1)ウ] 【学】進んで図鑑の使い方を確かめ、学習課題に沿って読書に親しもうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
ことばのきまり1 文のかたち 2時間(知技①書①) 教:1下p18~19 ◇文の型や主述の関係を理解することができる。【知】:(1)カ、【書】:(1)ウ	2	①教科書p.18の絵を見て文を作り、友達と出し合う。 ②教科書を読み、作った文の形を確かめる。 ③p.19上・下段の課題に取り組み、作った文を友達と確かめ合う。 ④主語と述語との関係に気を付けて、いろいろな文を作り、出し合う。	【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] 【書】語と語の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 【学】進んで主語と述語との関係を確かめ、これまでの経験を生かして、文を適切に作る。[学びに向かう力、人間性等]
ことばのいずみ1 かたかな 3時間(知技③) 教:1下p20~23 ◇片仮名を読んだり書いたりするとともに、片仮名で書く言葉の種類を理解することができる。【知】:(1)ウ	2	①教科書p.20の例文の中から片仮名を見つけて出し合い、例文を音読する。 ②片仮名で書く言葉の種類を知る。 ③片仮名表を見て片仮名を読んだり、マス目に書いたりする。 ④身の回りから片仮名で書く言葉を見つけ、ノートに書き出す。	【知】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 【学】進んで片仮名で書く語の種類を理解し、学習課題に沿って、片仮名を適切に使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
2 みんなではなしあおう クイズ大会をしよう 6時間(話聞⑥) 教:1下p24~27 ◇相手の発言を受けて話をつなげながら話し合えることができる。【知】:(1)ア、【話】:(1)エ、オ、(2)イ	6	①学習課題と進め方を確かめる。 ②先生が出すヒントを聞き、クイズ大会の大まかなルールをつかむ。 ③グループで話し合い、出すクイズの答えを決める。 ④三つのヒントを決めるための話し合いの仕方確かめ、グループで話し合う。 ⑤三つのヒントをどの順番で言うのかを決め、練習して確かめる。 ⑥作ったクイズをもとにクイズ大会を行い、ヒントの出し方について話し合う。 ⑦グループで考えを出し合ってまとめるときに大切なことなど、学習の振り返りをする。	【知】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 【話】話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞くことができる。[思・判・表 A(1)エ] 【話】互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表 A(1)オ] 【学】積極的に互いの話に関心をもち、これまでの学習を生かして話をつなげようとする。[学びに向かう力、人間性等]
3 ようずをおもいうかべてよう はじめは「や!」 9時間(読⑨) 教:1下p28~39 ◇場面の様子に着目し、人物の行動を具体的に想像しながら内容の大体を捉え、自分の体験と結び付けて、感想を伝え合うことができる。【知】:(1)ク、【読】:(1)イ、エ、オ、(2)イ	9	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②初発の感想を交流する。 ③挿絵をもとに、人物の言動やお話のすじを確かめ、全体のあらましをつかむ。 ④二つの場面の様子を比べ、様子が変わるきっかけとなる場面の行動やわけについて想像する。 ⑤読んで理解したことをもとに、工夫して音読する。 ⑥どんな気持ちを込めて音読したのかを伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 【読】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ] 【読】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ] 【読】文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] 【学】進んで場面の様子を想像し、学習の見通しをもって読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]
ことばのいずみ2 日づけとよう日 2時間(知技②) 教:1下p40~41 ◇日付や曜日など、身近なことを表す言葉について理解し、読んだり書いたりすることができる。【知】:(1)エ、オ	2	①教科書pp.40~41の解説や例文を読み、日付と曜日の読み方を知る。 ②新出漢字の字形や筆順に注意しながら、書く練習をする。 ③日付や曜日を表す言葉を使った文やクイズを作り、友達と出し合う。	【知】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 【知】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技(1)オ] 【学】進んで日付や曜日を表す言葉の量を増やし、これまでの学習を生かして、文や文章の中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
ゆたかにひょうげんしよう 見て、きいて、さわって 7時間(書⑦) 教:1下p42~43 ◇身の回りのものから題材を決め、五感で感じたことや思ったことをもとに、短い詩を書くことができる。【知】:(1)ア、オ、【書】:(1)エ、オ	7	①モデルの詩を読み、気付いたことやおもしろい表現について出し合う。 ②身の回りから詩に書きたいものを選ぶ。 ③書きたいものを観察し、五感で感じたことをメモに書き出す。 ④メモをもとに詩を創作する。 ⑤友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。	【知】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 【知】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技(1)オ] 【書】経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 【書】文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ] 【学】積極的に身の回りのことを観察し、学習課題に沿って感じたことを詩に表そうとする。[学びに向かう力、人間性等]

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
<p>4 じゅんじょをたしかめながら よもう</p> <p>まめ</p> <p>5時間(読⑤)</p> <p>教:1下p44～49</p> <p>◇時間の順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、文章の中の大事な語や文を選び出すことができる。【知】:(1)キ、(2)ア、【読】:(1)ア、ウ</p>	4	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。</p> <p>②植物や野菜などの成長について、知っていることを出し合う。</p> <p>③写真を手がかりに順序を確かめ、文章の大体をつかむ。</p> <p>④表をもとに、時間の順序と成長していく様子との関わりを捉える。</p> <p>⑤「へそ」に着目し、人間のへそと比べ、その役割を考える。</p> <p>⑥冒頭の問題提示文が結論の要素を含み、それを証明するための説明文であることを捉え、命のつながりについて考える。</p> <p>⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】敬体で書かれた文章に慣れることができる。[知・技 (1)キ]</p> <p>【知】事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技 (2)ア]</p> <p>【読】時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア]</p> <p>【読】文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。[思・判・表 C(1)ウ]</p> <p>【学】進んで述べられている順序を考え、学習課題に沿って読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>文しょうのかきかた・まとめかた</p> <p>まる(。)、てん(。)、かぎ(「」)のつけかた</p> <p>3時間(知技①書②)</p> <p>教:1下p50～51</p> <p>◇句読点やかぎ(「」)の使い方を理解し、適切な表記で文章を書くことができる。【知】:(1)ウ、【書】:(1)エ</p>	3	<p>①例示された文を読み、読みにくさの理由を考え、出し合う。</p> <p>②例示された文に句読点やかぎ(「」)を付ける。</p> <p>③句読点やかぎ(「」)を付けた文章を友達と読み合う。</p> <p>④句読点やかぎ(「」)の付け方を理解し、読みやすさに気付く。</p> <p>⑤最近の出来事や身の回りのことについて、句読点やかぎを使った文章を書く。</p> <p>⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【書】文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ]</p> <p>【学】進んで間違いを直し、今までの学習を生かして適切な表記の文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>ことばのきまり2</p> <p>よみやすくなるために</p> <p>2時間(知技②)</p> <p>教:1下p52～53</p> <p>◇句読点の打ち方や平仮名と片仮名の使い分けを理解し、文や文章の中で使うことができる。【知】:(1)ウ</p>	2	<p>①教科書p.52上段の例文を読み比べ、句読点があることで読みやすく、意味が分かりやすくなることを知る。</p> <p>②p.52下段の例文を読み比べ、読点を付ける位置によって意味が変わってしまう場合があることを知る。</p> <p>③p.53の課題に取り組み、作った文章を友達と確かめ合う。</p> <p>④p.53下段の例文を読み比べ、気付いたことを出し合い、句読点だけでなく、平仮名、片仮名、漢字を使うことで読みやすくなることを知る。</p>	<p>【知】句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【学】進んで句読点や平仮名・片仮名を使う良さを知り、今までの学習を生かして、読み手に伝わりやすい文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>きょうをのこそう</p> <p>につきをかこう</p> <p>6時間(書⑥)</p> <p>教:1下p54～55</p> <p>◇その日の出来事から書くことを見つけ、書くことを明らかにするとともに、文と文との続き方や表記に気を付けて日記を書くことができる。【知】:(1)エ、ウ、【書】:(1)ア、エ、(2)イ</p>	5	<p>①学習課題を確かめ、学習の見通しをもつ。</p> <p>②教科書の文例を参考に、学校や家庭で経験した出来事から書くことを考える。</p> <p>③書きたい出来事を決め、したことや思ったこと、周りの様子などを思い出し、一つずつカードに書く。</p> <p>④カードを並べ、順序を考えて文章を書く。</p> <p>⑤書いた文章を、声に出して読んで確かめる。</p> <p>⑥文章を互いに読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技 (1)ア]</p> <p>【知】平仮名及び片仮名を読み、書くことができる。[知・技 (1)ウ]</p> <p>【書】経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア]</p> <p>【書】文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ]</p> <p>【学】進んでその日の出来事や感じたことを思い出し、学習の見通しをもって日記に書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>どくしょをひろげよう</p> <p>どくしょびじゅつかんをつくらう</p> <p>どくしょのへや</p> <p>3時間(知技②読①)</p> <p>教:1下p56～59</p> <p>◇好きな本の印象に残った場面を絵にして紹介し合うことで、読書の楽しさに気付くことができる。【知】:(3)エ、【読】:(1)カ、(2)イ</p>	1.5	<p>①教科書本文を読み、学習課題を確かめる。</p> <p>②好きな本を選び、印象に残っている場面の絵を描く。</p> <p>③絵の題名を考え、絵に付けるカードを書く。</p> <p>④読書美術館に掲示した作品を見合い、作品の良さや本を読んだ感想を伝え合う。</p> <p>⑤紹介された本に興味をもったり読書の部屋を見たりして、読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知】読書に親しみ、いろいろな本があることを知るることができる。[知・技 (3)エ]</p> <p>【読】文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ]</p> <p>【学】進んで読書に親しみ、今までの学習を生かして好きな事を紹介し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>みんなにつたえよう</p> <p>ふゆ休みにしたよ</p> <p>2時間(話聞②)</p> <p>教:1下p60～61</p> <p>◇経験したことから話題を決めて出来事を順序立てて考え、聞き手を意識しながら話し方を工夫して話すことができる。【知】:(1)イ、オ、【話】:(1)ア、イ、ウ</p>	1.5	<p>①挿絵を見て、冬休みの経験を具体的にイメージする。</p> <p>②モデル文を参考に学習課題をつかみ、冬休みの出来事を思い出して話題を決める。</p> <p>③スピーチの組み立てを考える。</p> <p>④表現を工夫して話す。</p> <p>⑤友達のスピーチについて感想を伝え合う。</p> <p>⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。[知・技 (1)イ]</p> <p>【知】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)オ]</p> <p>【話】身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア]</p> <p>【話】相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。[思・判・表 A(1)イ]</p> <p>【話】伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。[思・判・表 A(1)ウ]</p> <p>【学】進んでみんなに伝えたいことを選び、学習の見通しをもって聞き手に伝わるように話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
5 つながりをかんがえてよもう めだかのぼうけん 7時間(読⑦) 教:1下p62～71 ◇時間の順序を表す言葉に着目し、事柄同士の関係を考えながら内容の大体を捉え、分かったことや感想を伝え合うことができる。 【知】:(1)カ、(2)ア、【読】:(1)ア、カ、(2)ア	7	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②めだかについて知っていることを出し合い、教材文に興味をもつ。 ③時間の順序に沿って「田んぼ」と「めだか」の様子をカードにまとめ、全体を捉える。 ④叙述をもとに、書かれていない部分を想像で補い、読みを深める。 ⑤めだかの様子や人為的な理由による住環境の変化について捉え、「田んぼ」と「めだか」のつながりを考える。 ⑥題名に着目し、読んで理解したことをもとに短い文にまとめ、着目した叙述や感想について伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] 【知】事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 【読】時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] 【読】文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 【学】進んで順序やつながりを意識し、学習課題に沿って読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]
そうぞうをひろげよう 「音」をさがしておはなしづくり 12時間(書⑩) 教:1下p72～75 ◇身の回りから集めた「音を表す言葉」を使って物語を書き、感想を伝え合うことができる。【知】:(1)ア、オ、【書】:(1)ア、オ、(2)ウ	10	①学習課題と進め方を確かめる。 ②「音を表す言葉」を探し、どこから聞こえる音かを考える。 ③見つけた言葉を使って文を作る。 ④作った文を友達と読み合う。 ⑤作った文を使って、教科書の例を参考に短い物語を書く。 ⑥書いた物語を友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	【知】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 【知】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技(1)オ] 【書】想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 【書】文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ] 【学】進んで身の回りから「音を表す言葉」を見つけ、学習課題に沿って、物語を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
ことばのいずみ3 まとめてよぶことば 2時間(知技②) 教:1下p76～77 ◇意味によって言葉をまとめられることを理解し、上位語と下位語の関係に気付くことができる。【知】:(1)ア、オ	2	①教科書p.76上段の例文を読み、なぜおじさんが「わからない。」と言ったのかを出し合う。 ②p.76下段の解説を読み、意味による語句のまとまりや、上位語と下位語の関係を理解する。 ③p.77の課題に取り組み、友達と確かめ合う。 ④身の回りから、上位語・下位語の関係になる言葉を見つけて表にまとめ、発表する。	【知】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 【知】言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 【学】進んで上位語と下位語の関係を理解し、今までの学習を生かして、言葉を使い分けようとする。[学びに向かう力、人間性等]
ことばをおくろう ありがとうをとどけよう 6時間(書⑥) 教:1下p78～79 ◇身近な人に感謝の気持ちを伝えるために、カード形式の簡単な手紙を書くことができる。【知】:(1)ア、ウ、【書】:(1)エ、(2)イ	5	①手紙を書いたりもらったりした経験を出し合う。 ②上級生にカード形式の手紙を書いて渡すという学習課題をつかむ。 ③教科書の例を参考に、書き方を理解する。 ④感謝の気持ちが伝わるようにカードに書く。 ⑤書いたカードを声に出して読み、字の間違いや言葉の使い方に誤りがないか確かめる。 ⑥先生や家の人など、他にも感謝の気持ちを伝えたい人にカードを書いて渡す。 ⑦学習の振り返りをする。	【知】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 【知】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 【書】文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 【学】進んで身近な人への感謝の気持ちを思い出し、学習課題に沿って書き表して伝えようとする。[学びに向かう力、人間性等]
ことばのいずみ4 ひっじゅんとにているかん字 3時間(知技③) 教:1下p80～81 ◇筆順や似ている漢字に気を付けて、漢字を正しく読み書きすることができる。【知】:(1)エ	3	①教科書p.80上段の解説を読み、漢字には筆順があることを知る。 ②p.80下段に示された漢字を比べ、類似点や相違点に気を付けて、正しい筆順で書く。 ③p.81上段の課題に取り組み、筆順や字形に気を付けて漢字を書く。 ④形の似ている漢字や、筆順の間違いやすい漢字を、教科書の巻末ページなどから探し、文を作る。	【知】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 【学】進んで漢字の概形や筆順を確かめ、学習課題に沿って、正しく読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
6 じゅんじょよくかこう おてつだいをしたよ 12時間(書⑫) 教:1下p82～85 ◇経験したお手伝いの中から書きたいことを選び、順序に沿ってつながりのある文章を書くことができる。【知】:(1)ウ、(2)ア、【書】:(1)ア、エ、オ、(2)ア	9	①学習課題と進め方を確かめる。 ②日頃しているお手伝いやしたことのあるお手伝いの中から、書いて伝えたいことを選ぶ。 ③選んだお手伝いについて、したことや思ったこと、周りの様子などを思い出して、ノートに書き出す。 ④したことを順序に気を付けて表にまとめ、そのときに思ったことを照応させて表に書き入れる。 ⑤表をもとにpp.84～85のモデル文を参考にしながら文章を書く。 ⑥書いた文章を声に出して読み、書き間違いがないかなどを確かめる。 ⑦友達と互いに読み合い、感想を伝え合う。 ⑧順序に沿って分かりやすい文章を書くことができたかを振り返る。	【知】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 【知】事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 【書】経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 【書】自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ] 【書】文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ] 【学】進んで経験したことを順序やまとまりに注意し、学習課題に沿って文章に書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

単元・教材名、時数、主なねらい	学校での授業時数	主な学習活動	単元の目標と評価規準
<p>7 ばめんのようすをおもいうかべてよもう ろくべえまってるよ</p> <p>12時間(読⑫)</p> <p>教:1下p86～104</p> <p>◇場面の様子に着目して人物の行動を具体的に想像しながら内容の大体を捉え、好きな場面を工夫して音読し、感想を伝え合うことができる。【知】:(1)ク、【読】:(1)イ、エ、カ、(2)イ</p>	12	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。</p> <p>②初発の感想を交流する。</p> <p>③人物の行動をもとにお話のすじを捉え、全体のあらましを確かめる。</p> <p>④場面ごとの様子を、叙述をもとに具体的に想像する。</p> <p>⑤読み取ったことをもとに役割音読する。</p> <p>⑥表現の良さについて伝え合う。</p> <p>⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>【知】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク]</p> <p>【読】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ]</p> <p>【読】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ]</p> <p>【読】文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ]</p> <p>【学】進んで想像した場面の様子がよく伝わるよう音読の仕方を考え、今までの学習を生かして音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>かん字のひろば</p> <p>1時間(知技①)</p> <p>教:1下p.105</p> <p>◇1年生に担当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。【知】:(1)エ</p>	1	<p>①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。</p> <p>②新出漢字を書く練習をする。</p> <p>③漢字や文の間違いを正す。</p>	<p>【知】第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書くことができる。[知・技(1)エ]</p> <p>【学】進んで1年生に担当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文の中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>これからのあなたへ</p> <p>うれしかった</p> <p>1時間(読①)</p> <p>教:1下p106～107</p> <p>◇詩に描かれた様子を想像し、自分の経験と結び付けて感想をもつことができる。【読】:(1)オ</p>	1	<p>①「うれしかった」に描かれた様子を想像し、繰り返しによる世界の広がりや擬人法などの表現を楽しみながら音読する。</p> <p>②詩から受け取った喜びの感情を、自分の成長過程と結び付けて感想を出し合う。</p> <p>③学習の振り返りをする。</p>	<p>【読】文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表 C(1)オ]</p> <p>【学】進んで描かれた様子を想像し、読んだ感想を出し合うとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>一年生をふりかえって</p> <p>3時間(書③)</p> <p>教:1下p.108</p> <p>◇一年間の国語学習を振り返り、頑張ったことやこれからも続けたいことを考えて書くことができる。【知】:(1)ウ、カ、【書】:(1)ウ、オ</p>	2.5	<p>①1年生の国語学習を思い出し、頑張ったことやこれからも続けていきたいことを友達と話し合う。</p> <p>②p.108の作文例を読み、書き方をつかむ。</p> <p>③書くことをメモにまとめ、順番を考える。</p> <p>④文章をノートに書く。</p> <p>⑤友達と読み合い、感想を伝え合ったり、家の人に読んでもらったりする。</p> <p>⑥学習の振り返りをし、これからの学習について話し合う。</p>	<p>【知】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ]</p> <p>【知】文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ]</p> <p>【書】語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ]</p> <p>【書】文章に対する感想を伝え合うことができる。[思・判・表 B(1)オ]</p> <p>【学】進んで一年間の国語学習を振り返り、頑張ったことを思い出して書いてまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>